

第3回 小千谷市立小中学校の在り方検討委員会 会議録

日 時：令和7年4月22日（火） 午前9：30～12：00

場 所：小千谷小学校 集会室

出席者：17人

遠藤英和委員	船岡芳英委員	関昌子委員	鈴木進五委員	山崎勝之委員
菊地亜弥子委員	森田雅弘委員	大西洋子委員	渡邊類委員	大場亜梨沙委員
森本恵理子委員	渡邊久美子委員	佐藤正機委員	木原宏幸委員	関麻紀委員
佐藤正敏委員	和田慶太委員			

事務局：5人

小林管理指導主事 久保管理指導主事 小田原学校教育係長 岩渕教育総務係長 和田主任

会議概要：

1. 開会

17人の委員からの出席をもって、「小千谷市立小中学校の在り方検討委員会設置要綱」第6条に基づき、会議の成立を報告。

2. 学校視察

小千谷小学校 金井教頭より小千谷小学校を案内いただき、子どもたちの様子等を視察。

3. 委員長挨拶

4. 検討委員の変更と副委員長指名

「小千谷市立小中学校の在り方検討委員会設置要綱」第5条の規定により、次のとおり指名選任された。

副委員長：山崎勝之委員

5. 議事

1. 第2回検討委員会の振り返り
2. 小千谷小学校について（山崎校長より学校経営・学校事情について説明）
3. 小千谷市における適正な学校規模について
4. 今後のスケジュールについて

6. その他

7. 閉会

発 言 者	内 容
遠藤委員長	・適正な学校規模の作り方を考えていくために、各委員から話題を提供いただきたい。 (保護者代表の委員から保護者の立場から学校教育に求めること)
大西委員	・子どもが夢を持ち、色々なことにチャレンジできるように、学校が子どもたちを良い方向に進めてほしい。
渡邊類委員	・子どもが元気に安心して毎日学校に通えること。不登校の子どもが増加している中で、子どもの心を一番に考えることが重要。
大場委員	・クラス替えができる環境。クラス替えがないと、人間関係がリセットできず、何かあったときに卒業まで同じ人間関係を引きずってしまうことが心配。2年ごとにでもクラス替えがあると新しい自分も作ることができる。 ・学校では挨拶が飛び交っているが、学校の外では挨拶が少ない。子どもたちの地域への愛着が薄れていっているのではないか。
森本委員	・子どもたちが学校を楽しんでくれること。多様性に配慮しながら、子どもを見守ってほしい。 ・子どもが自分から勉強するような環境づくりをしてほしい。
渡邊久美子委員	・学校は学習する場であるため、学習する環境をきちんと整えること。 ・部活動や地域の交流・子ども同士の関わりなど、様々な活動のきっかけを作り、子どもの健全な成長を促すことができればよい。 (地域代表の委員から地域事情・学校に対しての考え)
佐藤正機委員	・経験からすると、健康に過ごし、健全な人間関係の中で育てば、将来どのような立場になっても心配はない。 ・子どもたちの挨拶が良くない。挨拶は社会に出たときに必ず生きてくるもの。挨拶が良ければ、人との関わりが広まったり、深まったりする。
木原委員	・地域の行事に子どもを連れて参加する保護者が少なく、地域と子どもたちとの接点が少ない。学校の行事、地域の行事に積極的に参加してもらう形が地域を大切にすることに繋がるのではないか。 ・子どもが地域に戻ってきたいと思うような教育をしてほしい。伝統・文化に触れる機会を授業等で作ってもらえると良い。
関麻紀委員	・南小・中学校は4地区が集まっており、各町内での交流はあるが、南地区全体での交流の場がない。学校には南地区全体での交流ができるきっかけ作りの場になってほしい。
佐藤正敏委員	・片貝地区は中学卒業時に同級会を設立し、片貝祭りで花火を打ち上げたりしているが、現在は若い世代で退会者が増加している。

佐藤正敏委員	郷土愛を育むような教育をしていくために、地域ぐるみで子どもたちを育てていく必要がある。 ・保育園から中学校までクラス替えがない環境。高校に進学後、学校に通えなくなった子どももいる。 ・小中一貫校にすることも視野に入れて検討してはどうか。 (第4回小千谷市立小中学校の在り方検討委員会について) ・次回は、学校代表の委員には「学校が果たすべき役割」、市教委には「小千谷市の教育方針」について、意見を述べてもらうことを確認。 ・第4回検討委員会は、5月23日(金)14:00より、東山小学校にて開催することを確認。
--------	---

上記委員会の次第を記載し、その相違ないことを証明するため、ここに署名する。

令和7年5月23日

小千谷市立小中学校の在り方検討委員会

委員長